田

正

信 久 君

君

作 作 歌 #

一条歌 名

ただる たかか たんの春の 浮ぅ 芳ぉゅり か 百漂うや. の夕間暮 わらか の

> 残 よぎ

6

るかき 空気の

薄すの

れ

ゆく

津っ朝き

影がら

紅がけ

ぼ 軽が

牧き楡の露の 場は林んに

ť á

る夢醒き

め

7

滴たた Ŧī.

ŋ

生い

々せい

 σ

あ

去 り

て渡りこぬ

湧き立つ空の なかに歌ななかに歌な

くれない 12 ľ

つ空の群なる朝もやのどる朝もやのとるがままりた。

鳥をめ

お ね

つらぬ い 、ま六十二

たる

光かり

かか

む

八十とおませわ そと

の夜は明けぬ

雲も風 蒼きに

棚な

引び

ζ

ゃ

か

0

A to the second of the secon 六^む色^いる 十^を壮^き。 路^じ麗^い鳴

六セ長なあ ま有

十その 有意路は旅売舞まの明まの 寝れい 月 明の自治の原から をいるに でである でである でである でである でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でいる。 でい。 でいる。 でい。 でいる。 でい。 でいる。 でい。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でい。 でい。 でいる。 でい。 でいる。 でい。 でい。 Ŕ

麗言四 映るな る 銀が \mathcal{O}

散⁵星^は垂⁵軒⁸る 影^{*}が る 影^{*}が な 六セ野のあ あ 凍に映 夜ょ路じ狭せ枯か ひ ž n いる松が枝がる 灯に ひら 果は も Ċ る 花 糖 Ó る き 雪 ぎ の を 0 実 は ح 花な ぬ

はやる太鼓の轟きはいざ高らかに祭歌 歌をうたわばり また かんぱせ ない もわらう 憂さも舞 人もわらう記念祭を を 顔 に篝火の 顔 に篝火の く 鼓駆かの V 飛ぶ火のが、大きゅう きは 粉:

付する生命なり なりが かいかん 駆け抜けて

音さ も 秘で

死に絶えて の か の音もなく す 星あ Ó そや ゆ 3 か 0

奔は蜉が細さ

十ゃも も 更ぶ春は埋っ に咲き け じかざ のる 舎ぇや

六セ銀デあ 十を鱗カめあ

お

どる紅鮭

は

て泳ぎこぬ

関やの教

ゥ溯gg ら

Þ

の 川かず ま

つよ

か

ŋ

ħ を

な ŋ